



Title	井戸武實さんとの思い出
Author(s)	三杉, 隆文
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 37-38
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100736
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

井戸武實さんとの思い出

三 杉 隆 文

大阪府富田林保健所

私にとって井戸さんは、大阪府の職員として放射線技師としても大先輩であり、恩人であります。井戸さんが現職だった頃はもちろん、退職されてからも結核勉強会でお世話になり、数々の助言や励ましを頂きました。

井戸さんは昭和41年に大阪府に採用され、藤井寺保健所、松原保健所、泉大津保健所、富田林保健所での勤務を経て、平成3年に本庁（地域保健課結核係）に異動され、平成11年までの9年間、大阪府の結核対策の陣頭指揮を執ってこられました。平成12年から藤井寺保健所で放射線検診科長としてエックス線自動車（はと号）の運用に尽力し、平成17年3月に退職され、退職後も、大阪公衆衛生協会事務局長として精力的に結核対策に取り組まれてきました。昨年、私が勤務する富田林保健所に来られた際は、旧知の職員たちと談笑され、とても79才とは思えない快活さでしたので、お亡くなりになられたのが今でも信じられません。

井戸さんが入職された昭和41年当時は、大阪府が管轄する保健所が20か所、支所が2か所もあり、各保健所に1台、はと号が配備されていました。患者・家族の自宅をはと号で巡回訪問して、管理家族検診（胸部エックス線検査）を受けてもらい、検診によって結核患者を発見しようとしていた時代です。毎日、毎日、撮影業務に追われ、帰所後も現像に取りかからねばならず多忙を極めたそうです。

私が大阪府に採用された平成3年頃は、健康診断を受診する機会が少ないとと思われる小規模事業所（従業員数が50人未満の町工場など）に巡回訪問し、そこで働く工員さん達に検診を受けてもらい、結核患者の早期発見につなげようとしていました。住宅地図を片手に町工場を片っ端から巡回して声をかけ、受診を勧奨する“ローラー作戦”が始まったのもこの頃です。

口下手な私は、見ず知らずの所を訪ねて受診勧奨をするのが苦手で、思うように受診してもらえず困っていたのですが、井戸さんが応援に駆けつけてくださり、一緒に巡回したことがあります。井戸さんは、にこやかに町工場に入って行かれ、良く通る声で「ここにちはー」と挨拶、持参したパネルを使って丁寧に説明されるものですから、たちまち受診者の行列ができるのは言うまでもありません。井戸さんの背中は、「こんな風にやるんやで」と言われていました。

大阪市と堺市を除く大阪府の結核罹患率（人口10万対）は、井戸さんが入職された昭和41年は405、平成3年は54、はと号が全廃となった平成20年は24.4、令和5年には10.3と大きく低下しました。ここまで低下させることができたのは、先人たちの努力のたまものだと思います。

現在、結核高まん延国からの入国する外国人の増加に伴って、外国出生結核患者の割合が年々増加しています。井戸さんだったらどんな対策を執られるでしょうか。バトンタッチされた我々はどうすればいいのでしょうか。半世紀以上もの長い間、結核対策に取り組んでこられたられた井戸さんの仕

事を前にすると、敬意を表さずにはいられません。



平成 10 年(1998)、本庁勤務の診療放射線技師と大阪府庁前で（左から田中豊實氏、井戸武實氏、大町直樹氏）（写真提供：三杉隆文） 井戸武實さんは、大阪府保健衛生部保健予防課結核係主査として 1991 年より 9 年間、大阪府全体の結核対策に従事し、府下の病院・診療所などに在勤するすべての医師に結核の基礎から臨床、対策にいたる研修を企画実施した。



昭和の時代に活躍したエックス線自動車（はと号）

狭い路地にも入っていけるようにコンパクトな車体になっている。結核ワースト 1 の大阪で、小規模事業所の従事者を対象に、結核検診などで大きな役割を果たしてきた。平成 20 年に全廃となった。